平成30年度　生活科実践・研究計画

部　員	○福田佳子，嶋崎裕子

研究テーマ
対象に主体的にかかわり続けながら，
気付きを深めていく子どもを育む学び

1　研究テーマについて

平成27年度から３年間，「自分自身への気付きを質的に高め，豊かな生活を生み出す生活科学習」をテーマとして研究を進めてきた。３年間の実践を通して，繰り返し対象とかかわる場を設定することで思考的な気付きが積み重ねられること，積み重ねられた個々の気付きが「対話」によってさらに深化することが確かめられた。また，単位時間ごとのふり返りとともに単元全体のふり返りの場を充実させることで，自分たちの学びの成果を実感し，自分自身の成長に気付くことができることも実践から明らかになった。しかし一方で，対象に対する思いや願いの高まりの違いから，気付きの質や深まりに大きな個人差が表れることが課題として残った。個々の気付きの質を高めるためには，具体的な活動や体験の充実が不可欠である。子どもが活動に没頭し，対象にかかわり続けていくことができるようにするにはどのような手立てを講じるべきか，さらに検証を重ねていく必要がある。

生活科では，研究主題の「自律した学習者」を，自分なりの思いや願いをもって対象に主体的にかかわり続けながら，対象や自分自身への気付きを深めていく子どもととらえる。また，研究副題の「学びをつなぐ」ことを，互いの気付きを交流することを通して，次の活動への思いや願いが生まれることととらえる。「小学校学習指導要領解説　生活編」において「気付きは次の自発的な活動を誘発するものとなる。」と示されている。子どもは，友達の気付きにふれることで自分の気付きを見つめ直す。それによって対象に対して新たな気付きや疑問が子どもの中から生まれてくる。それは，次の活動や体験への思いや願いとなり，子どもの主体的な活動の原動力となるものと考える。

そこで，生活科では研究テーマを「対象に主体的にかかわり続けながら，気付きを深めていく子どもを育む学び」とした。「対象に主体的にかかわり続ける」とは，自分の思いや願いの実現に向けて，自分なりの方法で試行錯誤を重ねながら繰り返し対象に働きかけていくことと考える。また，「気付きを深めていく」とは，対象へ働きかけていく中で，以前よりも対象について詳しくなったり，対象との関係がよりよくなったりした自分自身に気付いていくことと考える。

生活科における「学びをつなぎ，資質・能力を高めていく子どもの姿」を次のようにとらえる。

- 自分の活動や対象との関係を見つめ直し，そこから次の活動や体験への思いや願いを新たにもっている姿
- 自分の思いや願いをもとに，自分の活動の目標や目的を明確にもち対象に向き合おうとしている姿
- 自分と友達の気付きを共有し，比べたり，関連付けたりすることを通して，自分の気付きをさらに深めようとしている姿

２　研究の重点

(1)　子どもが対象への価値を見いだし，主体的にかかわり続けることができる単元構成の工夫

対象に主体的にかかわり続けるためには，子どもが活動に没頭していきたいと思うような価値を対象に見いだしていることが必要である。そこで，子どもが自分なりに対象への価値を見いだしていく過程を大事にする。単元の序盤においては，子どもの意欲を喚起するよう対象との出会いの場を工夫する。さらに，かかわりたい対象と繰り返しかかわることができるように単元構成を工夫するとともに，子ども一人一人の思いや願いに寄り添い，子どもの多様性を生かすことができるように学習指導の在り方を工夫していく。単元の終末では，子どもが自分たちの気付きや学びの何がよかったのかを自覚することができるようにふり返りの場を充実させる。自分たちの学びの手応えと成長した自分を実感させることで，単元の学習で得た気付きや学び方を転用可能な力として次の学習や生活に生かしていこうとする態度を育むことができると考える。教師は，子どもが何に興味を示し，何に驚き，何を必要としているか，子どもの発言や活動，表現物，ふり返りカードなどから見取り，子どもの変容を確かめる。

(2)　新たな気付きや疑問を生む「見方・考え方」を生かしながら伝え合い交流する場の工夫

子どもたちは，活動に没頭する中で様々な気付きをしている。その気付きを互いに伝え合うことで個々の気付きが共有される。そこから新たな気付きや疑問を生むことができるように，自分の気付きと友達の気付きを比べたり，関連付けたりという「見方・考え方」を生かす学習活動を設定する。新たな気付きや疑問は次の活動への思いや願いとなり，子どもの主体的な活動を支えるものとなる。さらに，このように気付いたことをもとにして考える活動を単元の中で積み重ねていくことで，気付きが深まっていくものと考える。子どもの学びの変容を見取る手立てとしては，個々の気付きから新たな気付きや疑問を生み出す過程にはどのような思考や表現があったのか，伝え合い交流する場における発言から単元の「見方・考え方」につながるものを取り出し，分析する。

３　研究・研修計画

時　期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
１学期	・教科部会 ・附属小学校公開研究協議会（6/8） 提案授業（１Ｂ：嶋崎，２Ａ：福田） ・附属幼稚園公開研究協議会（6/28）	・実践・研究計画の立案 ・授業づくり，授業力向上 ・授業を通して重点事項の検証
２学期	・研究紀要原稿執筆 ・教科部会 ・幼小連携相互乗り入れ授業 提案授業 （嶋崎・附属幼稚園年長児担任：１Ｂ） ・附属幼稚園公開研究協議会（11/16）	・実践・研究のまとめ ・実践・研究計画の修正 ・子どもの見取り，子ども理解，授業を通して研究の方向性を確認 ・授業づくり，授業力向上
３学期	・大学との連携（初等生活科教育学概論） ・教科部会 ・部内研修会（福田：２Ａ）	・大学生への講義 ・研究の方向性の確認 ・実践・研究計画の立案

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正